

しょうがくせい みな  
小学生の皆さんへ

きのう ちち ひ みな す きょう はなし ひとり どうさま  
昨日は父の日でしたが、皆さんはどのように過ごしましたか。今日のお話は、一人ひとりのお父様というよりは、「天におられる私たちの父」についてです。皆さんが慣れ親しんでいる「主の祈り」に出てくる言葉です  
ね。

きょう かみさま ちち かみ ひょうげん かみさま にんげん だんせい かぎ  
キリスト教では神様を「父なる神」と表現しますが、もちろん神様は人間ではありませんので、男性に限るわけでは  
ありません。英語の国では、「Our Father and Mother (わたしたちのお父様お母様)」と神様に呼びかけたりすること  
もあります。聖書では父なる神を強調しているように思われがちですが、よく読んでい  
ると、神様のお母様のようなところも描かれているのがわかります。

きょうしょうかい え  
今日紹介したい一つの絵があります。それは、レンブラントの描いた「放蕩息子の帰還」という絵です。「ル  
カによる福音書」に出てくる「放蕩息子」のたとえ話は、皆さんよくご存じのことでしょう。ある金持ちの次男  
の話です。息子は自分が譲り受けるはずの財産をもらって家を出て行ってしまったのですが、だらしのない  
生活をしてすべてを失い、何とか父親に助けてもらおうと家に戻ってきます。まだ遠くの方にいる息子を見つ  
けた父親は憐れに思って走り寄り、大喜びで迎えた、という場面をレンブラントは描いています。「いなくな  
っていたのに見つかった」と、愛しい息子を抱き寄せています。

え なか ふしぎ ちちおや りょうて みぎて ひだりて まった べつじん  
この絵の中で、とても不思議なのが、父親の両手です。なぜか右手と左手が全く別人のようにちがっていま  
す。しなやかでほっそりとした右の手は、優しく弟の背中を撫で、大きくてがっちりとした左の手はしっかり  
と弟を受け止めているかのようです。神は愛そのものですから、お父様のような愛とお母様のような愛が  
一緒になった愛であることは、当然と言えば当然なのでしょう。レンブラントはたとえ話に登場する父親の手  
を描くことを通して、神様の愛の深さ、豊かさ、大きさを見事に表しています。

きのう しょうがっこう ねんせい にゆうがくしき おこな おばやしせいしん しょうがっこう かみさま あい  
昨日は、ようやく小学校1年生の入学式を行うことができました。小林聖心の小学校で、神様の愛をたくさ  
ん受けて成長していきますように。

